

「国際化社会に向け、日本の代表

として意識できる人になりたい」

―決意を新たに278人が出席・平成31年南丹市成人式―

1月13日、国際交流会館で二十歳の門出を祝う成人式を行いスーツや振り袖、羽織はかま姿の新成人が出席し、大人としての決意を新たにしました。また、来賓のほか、小・中学校時代の恩師も式典に出席され、新成人の前途を祝福しました。



式辞を述べる西村市長



(左から)市長へ誓いの言葉を贈る藤林ゴウさん、藤林シュウさん



記念品を受け取る榊さやかさん



(左から)司会を務める浅田真友子さん、中田花菜さん

今年の成人式は、平成10年4月2日から平成11年4月1日生まれの市内在住者396人と、市内小・中学校の卒業生などの希望者を対象に行いました。

西村市長は、「これからの人生の中で、困難な局面に出会うとき、人とのつながりは大きな支えとなります。『自分が必要とされている』と自信を持ち、つながりをより大きく育み、喜び多き人生を歩まれることを望んでいます。未来に向かって歩もうとする皆さんの無限の可能性に大いに期待します」と式辞を述べ、新成人を祝福しました。

また、成人式実行委員の藤林ゴウさん、藤林シュウさんが新成人を代表して、「南丹市の春夏秋冬の風景、人のぬくもり、すべてが心の栄養となり私たちを育ててくれました。笑顔で成人式を迎えることができたのは、地域の方々や先生、いつも支えてくれた家族のおかげです」と感謝を述べるとともに、「今年、平成という時代が幕を閉じ、新しい時代になります。2020年には東京オリンピック・パラリンピック、25年には、日本万国博覧会が大阪で開催されます。世界の人々が日本に、そして京都を訪れることでしょう。国

際化社会に向け、一人一人が日本の代表だと意識できる大人になりたいと思います」と誓いの言葉を述べました。

式典と記念写真撮影に続いて行われた懇談会では、旧友や恩師との久しぶりの再会を喜ぶとともに、近況や思い出話に花を咲かせていました。

成人式のワンショット



②



①

- ① 会場の様子
- ② 記念写真撮影
- ③ なんとんテレビの取材に応える新成人
- ④ タイムカプセルを開け、旧友や恩師と談笑



④



③